東中学校 × 駒ヶ根市議会

こども未来会議

＜中学生議会＞

日時：令和４年３月４日（金）15時30分～17時
会場：東中学校及び駒ヶ根市議場（オンライン開催）

議長あいさつ

駒ヶ根市議会議長
小林敏夫

東中学校の皆さん、この度は、駒ヶ根市議会主催による駒ヶ根市議会こども未来会議（中学生議会）にご参加をいただき誠にありがとうございました。

本来であれば、全員参加のもと、駒ヶ根市役所議場において開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となりました。

非常に残念ではありましたが、各グループの代表者が、堂々と素晴らしい発表をいただきました。中学生の皆さんの目線から「自分たちで出来ることは自分たちでやる」という思いなど、どのグループも大変よくまとめられており感激いたしました。

さて、Eグループの発表にもありましたとおり、駒ヶ根市は東洋経済新報社による「住み良さランキング」において、全国812区市の中で昨年同様の12位の評価をいただきました。これは、安心度・利便度・快適度・富裕度の4視点、20種類のデータから算出されたものです。

この駒ヶ根市の住み良さを維持し、そして、更なる魅力向上を図るためには、若い世代の皆さんの声が非常に重要です。このこども未来会議をきっかけに、駒ヶ根市の良いところや課題を知ることで、今まで以上に愛着を持っていただき、地域のことを考える機会となればありがたいです。

今回は事前学習の段階から市議会議員が一緒に関わらせていただきましたが、皆さんの成長ぶりに驚くとともに、議員自身も大変勉強になりました。これを機会に議会や議員にも興味を持っていただき、お会いした際には気軽に声をかけていただけたら嬉しいです。

こども未来会議は次年度も引き続き開催する予定です。皆さんは先輩として是非後輩にアドバイスをいただけたらと思います。

最後になりますが、これまでご理解ご協力をいただきました先生方、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

駒ヶ根市がより良いまちになるよう、これからも一緒に頑張りましょう！

＝ 目 次 ＝

1　目的他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　事前学習・本会議の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

3　新聞掲載記事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

4　各グループの活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

5　提案書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

6　会議録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

1．目的

次代を担う子どもたち（中学生）が市政（まちづくり）や議会への理解を深め、若い世代の視点で駒ヶ根市のまちづくりについて考える機会を提供し、地域への愛着と誇りを高めるとともに、夢や希望を織り交ぜながら市政に対する要望や意見を今後の市政運営に反映させることを目的とする。

令和3年度は、東中学校をモデル校として開催する中で、次年度は赤穂中学校との合同実施を見据え課題等を共有する。

2．主催

駒ヶ根市議会

3．共催

駒ヶ根市、駒ヶ根市教育委員会

4．対象

駒ヶ根東中学校2年生69名

5．概要

「こんな駒ヶ根市にしたい！」をメインテーマに、７グループ（A：まちづくり・イベント、B：福祉・多様性、C：環境、D：農業、E：観光、F：教育、G：文化・スポーツ）においてアイデアを検討し、駒ヶ根市に対して提案する。

6．日程

内容	日程	時間	場所	内容
事前学習①	11月12日（金）	14:35～16:15	東中学校	こども未来会議の目的、議会の仕組み・役割などの共有、グループ別ワークショップ
事前学習②	12月20日（月）	14:35～15:50	東中学校	グループ別ワークショップ（提案まとめ）、グループ内発表
事前学習③	1月18日（火）	14:35～15:50	東中学校	提案シート及び提案原稿まとめ（東中生徒のみで実施）
事前学習④	1月25日（火）	14:00～15:00	オンライン	これまでの振り返り、本会議の流れ・発表方法の共有、グループ別打合せ（発表練習他）
最終打合せ	2月28日（月）	16:20～17:00	オンライン	グループ代表者との最終打合せ
本会議	3月4日（金）	15:30～17:00	オンライン	7グループ代表14名が市に対してまちづくりのアイデアを提案

「事前学習①」

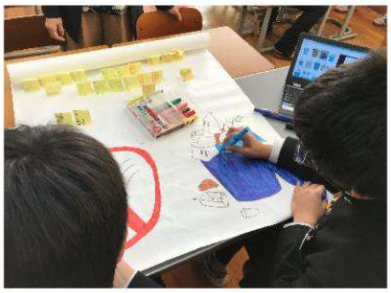
令和3年11月12日（金）

市議会議員の皆さんと初対面。議会の役割や仕組み、こども未来会議の目的などについて学習した後、７グループに分かれてワークショップを行いました。

「事前学習②」

令和3年12月20日（月）

前回に引き続き、７グループに分かれてワークショップを行いました。まちづくりのアイデアについて具体的な検討に入るとともに、グループ内で発表しました。



「事前学習③」

令和4年1月18日（火）

新型コロナウイルス感染拡大により、生徒のみでの実施となりました。
議員のアドバイスをもとに、提案シートや原稿をまとめました。

「事前学習④」（オンライン開催）

令和4年1月25日（火）

グループ毎で提案シートや原稿のまとめを行いました。また、本会議での発表に向けて、議場への入場方法、発表方法などについて学習しました。

「最終打合せ」（オンライン開催）

令和4年2月28日（月）

３月４日に迫った本会議に向けて、発表するグループ代表者と最終打合せを行いました。

「本会議」（オンライン開催）　令和4年3月4日（金）

当初は２年生全員が議場において提案する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、議長を含む代表議員16名によるオンライン方式にて開催しました。これまでの事前学習を通じて検討してきたまちづくりのアイデアを市長に対して提案しました。

議長には、藤井珠代議員と安保心結議員が選出されました。２人とも堂々とスムーズな進行をしていただきました。

駒ケ根市17年ぶり こども議会へ

ワークショップでまちづくりのアイデアを出し合う駒ケ根東中学校の2年生

駒ケ根市東中学校の2年生（69人）は12日、来年1月に予定している「こども未来会議（中学生議会）」への参加に向けた初の事前学習会を同校で開いた。「こんな駒ケ根市にしたい」をテーマに目指すべき市の姿を考え、議案として市に提出する計画。初回は検討項目別の7グループに分かれてワークショップを行い、まちづくりについてアイデアを出し合った。

次代を担う若い世代に市議会や市政への関心を持ってもらい、地域への愛着や誇りを高めようと市議会側の意向で企画。今年度は東中をモデル校とし、生徒たちが議場で提案する機会を設けた。同市での〝こども議会〟は市教育委員会の主催で開いた2004年11月以来17年ぶりとなる。

この日は市議から議会の仕組みや議員の役割について説明を受けた後、グループに分かれてワークショップを実施。各会場では市議らが進行役を務め、「まちづくり・イベント」「福祉・多様性」「観光」「教育」など7項目についてまちづくりのアイデアを検討した。

このうち「まちづくり・イベント」グループでは理想とする市の姿や実現の方法、効果を考え、生徒が意見やアイデアを書いた付箋を模造紙に張り付けて発表した。2年1組の小松愛美さん(14)は「改めて考えると、意外に気付いていない駒ケ根の課題もある」とし、議会では「子どもたちが安心して道を歩けるよう、交通安全について提案したい」と話していた。

生徒らは12月に開く2回目の事前学習で提出する議案をグループごとにまとめ、来年1月25日に市役所議場で開催予定の中学生議会に臨む。（堀木俊典）

まちづくりの〝議案〟検討

東中2年生が事前学習開始

2021.11.13_長野日報

まちかど

＊＊＊＊＊ 中学生議会に向け まちづくり考える

【駒ケ根】駒ケ根市東中学校2年生約70人が、来年1月25日に行う中学生議会に向けてまちづくりについて考えた＝写真。市長への提案をまとめる事前学習。地域への理解を深め、愛着を持ってほしいと市議会が企画した。生徒は議会の仕組みを学び、福祉や観光、農業など7テーマに分かれ市の課題や解決方法について意見交換した。

「福祉・多様性」の班では、市議が「高齢者や障害者、貧困の人など支援が必要な人はたくさんいる。市内にも親を養うために働いている子どもがいる」と説明。生徒は「学校で手話や点字を勉強したい」「買い物に行けない人のために移動販売を増やしたい」とアイデアを出し合った。

山田真瑞（まみ）さん(14)は「市の課題はたくさんあると気付いた。誰でも住みやすい街にできるよう行動に移したい」と話した。

2021.11.20_信濃毎日新聞

中学生の発想を市政に

駒ケ根市議会で提言発表

モニターを通して市議らに提言をする生徒ら＝駒ケ根市役所で

駒ケ根市の中学生が市政の課題を学習し、市へ提言する「こども未来会議」が四日、市議会議場と同市東中学校をオンラインで結んで開かれた。同校二年の代表生徒十六人が「議員」となり、議場の市議らに市政への意見を述べた。

生徒たちの発想や意見を市政に生かそうと企画された。生徒六十九人は昨年十一月から市の課題について学習。市議らの助言を受けながらグループに分かれて提言を練り、会議で発表する代表者を選んだ。

同校の山田珠瑠さんは、グループで農業の活性化について学んだ。農業を体験できるイベントを開くことで、市産野菜のおいしさを知ってもらい、観光客と移住者を呼び込む計画を提案。「全国から農家になりたい若者を集めるため、市は農家を支援してほしい」と求めた。

インターネットを通して全校生徒にアンケートをとったグループや、昨年閉幕した天竜かっぱ祭りの復活を要望する生徒もいた。

伊藤祐三市長は、生徒の提案の実現に向け、「情報発信、イベント運営にかかる費用をどう集めるかも皆さんと一緒に考えたい」と応じた。（清水大輔）

2022.3.6_中日新聞

まちづくりのアイデア提案

駒ケ根市 東中2年生が「未来会議」

市議らと意見交換

駒ケ根市東中学校の2年生（69人）による中学生議会「こども未来会議」が4日、同校と市役所議場をオンラインで結んで開かれた。主催する市議会の議員や市の理事者らに向け、代表の生徒14人が「こんな駒ケ根市にしたい！」をテーマに意見発表。観光や農業、教育など事前学習で検討を重ねてきた7項目について市の課題を指摘し、それぞれまちづくりのアイデアを提案した。（堀木俊典）

まちづくりや議会に対する子どもたちの理解を深め、地域への愛着や誇りを高めようと市議会側の提案で実現した中学生議会。当初は生徒たちに議場で提案してもらう計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、オンライン形式とした。

生徒らは昨年11月から計4回事前学習を行い、検討項目ごとのグループに分かれてワークショップを実施。市議の助言を受けながら提案内容をまとめ、本会議に臨んだ。

この日は生徒2人が議長を務め、項目ごとにグループの代表が2人ずつ意見発表した。「まちづくり・イベント」のグループでは、市民が「ふるさとの良いところを再発見する」イベントとして、同校の恒例行事「ふるさとの日」に市全体で取り組むことを提案。特産品の販売やカフェ、駒ケ根に関するクイズなど多彩な催しを行うことで「駒ケ根にしかない宝を発見できる」と訴えた。

東中学校と市役所議場をオンラインで結んだ「こども未来会議」

「福祉・多様性」の分野では、市の魅力を国内外に発信するためにも国際交流の機会を設けるよう要望。「文化・スポーツ」ではホッケーとeスポーツによるまちおこしの提案があった。

伊藤祐三市長は「会議をきっかけに駒ケ根のことを学んで知り、今まで以上に市を好きになってもらいたい」と期待。議長を務めた藤井珠代さんは「ただ提案して終わるのではなく、自分たちにできることから行動していきたい」と話していた。

2022.3.5_長野日報

駒ヶ根の活性化 生徒が提案

議員役に東中2年生 未来会議

議場の壁に映って提案する生徒

駒ケ根市議会は4日、市東中学校の2年生が議員役となり、地域の活性化や環境整備について市に提案する「こども未来会議」を開いた。学校とオンラインで結び、代表の生徒16人をプロジェクターで議場の壁に映して開催。ホッケーや国際交流でのまちおこし、牧場設置やポイ捨て防止など、さまざまな提案を伊藤祐三市長や議員らが聞いた。

昨年11月から2年生69人が班に分かれて提案を考えた。農家の後継者不足を課題に挙げた班の代表は「地元の農産物が地元で食べられていないのが問題」と指摘。使われていない畑で市民が農業を体験して加工品を作れば、「農業の良さに多くの人が気付き、課題解決に協力してくれる」と述べた。

同校の制服について生徒にアンケートした班もあり、半数が不満を持っていることから「重い学ランだけでなく選択肢として」ブレザーを追加してほしい」と求めた。

伊藤市長は「制服は皆さんの力で変えられるかもしれない。ぜひチャレンジして」などと一つずつ回答。「刺激的な意見ばかりだった。市に引き続き関心を持って提案してほしい」と呼び掛けた。

2022.3.5_信濃毎日新聞

A-1
まちづくり・イベント

メンバー	**◎小栗唯、臼井悠夏、小松愛彩美、林洋文**
提案内容	駒ヶ根市を「地元を思う愛であふれるあっつあつの街」にしたい！ ふたつのアルプスが映えるまち駒ヶ根。素晴らしい山々や自然豊かな田園風景がある里山の魅力が見過ごされており、観光地となりうるという認識が薄い。 このふるさとの里山を観光地として位置づけ、今あるありのままの景観、自然、歴史、文化、温泉、食などが混ざって癒されるまちとして多くの人に理解し感じていただきたい。
担当議員	中島和彦
担当議員より一言	小栗唯議員大変お疲れさまでした。東中学校の「ふるさとの日」が機転になって、地元の魅力を再発見し、「ふるさとを愛するこころ」を市全体に広げる試み、一緒に応援サポート致します!!

A-2
まちづくり・イベント

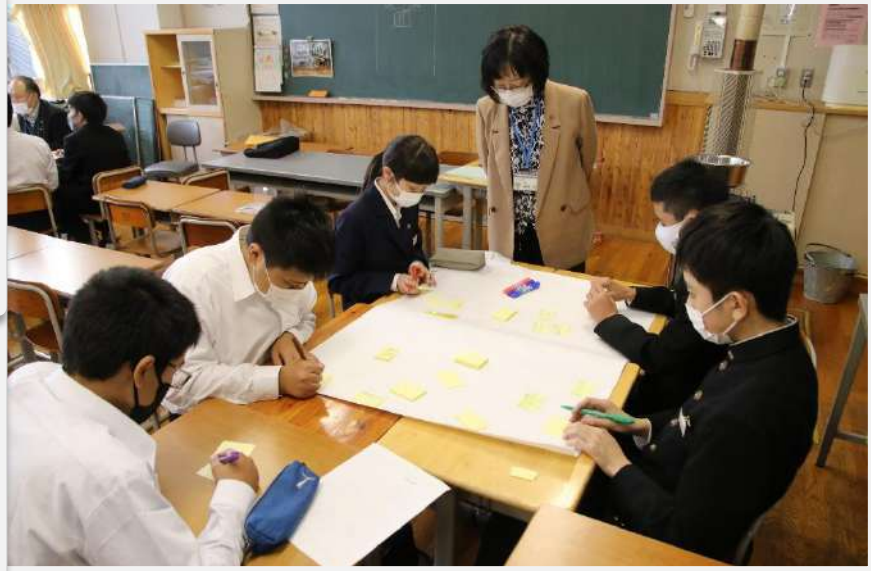
メンバー	**◎小高憲弥、片桐小春、小出来海、斎藤瞳美、林優乃、森田日向香**
提案内容	駒ヶ根市をもっと楽しく、明るくするために「かっぱ祭り」を復活させる！ （たくさんの人達がかっぱ祭りの復活を望んでいる。）
担当議員	加治木今
担当議員より一言	皆さんと初めてお会いした時、都会にあるものへのあこがれがたくさん出されました。その後かっぱ祭りについて復活したい、ふるさと学習を活かしたいという意見が出てきました。かっぱ祭りに小さいころから触れてきた想いが伝わりました。 私は皆さんに、やってもらうだけではなく、自分たちができることも考えようと申し上げました。ふるさと学習を活かすことに協力したいと思っています。そして自分たちができることを一緒に動いて確かめることができると嬉しいです。

B-1
福祉・多様性

メンバー	**◎山田真瑞、春日麻緒、窪田茉秀、下宮和空、丸山日彩**
提案内容	JICAとの交流を通して、世界の様々な文化を学ぶと共に駒ヶ根市の魅力を国内外に発信！ 世界の文化を学び駒ヶ根市が住みよい地域となるよう考えていきたい。
担当議員	中原茂之
担当議員より一言	異文化との交流を考えていくためには、JICA訓練所がある駒ヶ根市はとても良い環境にあると思います。他国の文化や民族の多様性を学び、豊かで平和な地域社会とは何かを考え、住みよい駒ヶ根市の未来のため、若い力で新しい考えを地域に発信していってください。

B-2
福祉・多様性

メンバー	**◎湯澤翠、有賀羽矢斗、大原絆士朗、小椋なな**
提案内容	お金がなくて困っている人を減らしたい！ 全ての子どもたちが自分の希望する進路に進めるようになってほしい！
担当議員	池田幸代
担当議員より一言	コロナ禍で、また戦争が起これば生活困窮が一気に身近になることが強く認識される現在、中学生の皆さんが困りごとを人ごとにしない鋭敏な感覚を持ってくれたことがとても嬉しいです。 長い人生の中で誰かを助けたり、助けられたり、快く「できることがあったら言ってね」とお互いに言い合える地域社会にするためにも、皆さんの優しい気持ちを出し惜しみせずにどんどん人に関わって下さい。



C-1
環境

メンバー	**◎酒井紋奈、久保田優太、小池真叶、下平遼太郎、中城瀬那**
提案内容	①ごみのポイ捨てがなくなってほしい！ ②森を適切に管理し、地球温暖化の抑制や土砂災害が少なく安全なまちになってほしい！
担当議員	氣賀澤葉子
担当議員より一言	環境という難しいテーマでしたが、「駒ヶ根市の課題」「こんな駒ヶ根市にしたい」などについて一緒に考えることができて、とても楽しかったです。 意見が出ないときもありましたが、ネットで検索して、あっという間にステキなゴミ分別のイラストができあがったときは感激しました。本会議当日、議場で発表する内容は原稿用紙に分かりやすくまとめられ、落ち着いて上手な発表でした。皆さんの持っている底力を知ったような思いでした。 また、ゴミの他にも、ハザードマップを利用して身近な場所を確認するなどの災害に備える提案は、中学生らしくてとてもよかったです。 議場では会えませんでしたが、成長した皆さんと会えるのを楽しみにしています。 本当にありがとうございました。

C-2
環境

メンバー	**◎木下亮、石川寧桜、春日良太、北村芽珠、藤澤弥月**
提案内容	道路沿線の環境美化が保たれ、ゴミが落ちていない駒ヶ根市！
担当議員	竹村誉
担当議員より一言	C-2グループは、日頃通っている通学路や生活道路からみた環境の視点で提案されており、とてもリアルで率直な課題提起でした。道路沿線という視点から、いくつかある課題をそれぞれに掘り下げ、この場所の課題が他の課題の解決の糸口になる、そうした手法を皆さんと一緒に学ばさせて頂いた貴重な時間でした。ありがとうございました。

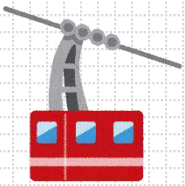
D-1
農業

メンバー	**◎澤崎那悠、有賀万琳、北村空音、竹村基誉成、藤井珠代**
提案内容	様々な農業体験を通じて、たくさんの人が農業に興味を持ってもらえるように！ 地元農産物を使った新たな商品開発を！
担当議員	小原晃一
担当議員より一言	D-１班の那悠さん・万琳さん・珠代さん・空音さん・基誉成さん！ 事前学習はもちろんオンラインでの議会発表は大人顔負けで素晴らしかったです。 これからも、ず～っと駒ヶ根の農業に関心を持ち続けて下さいネ！！

D-2
農業

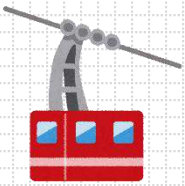
メンバー	◎山田珠璃、小出一歩、中野ことは、羽柴りえ、森田一士
提案内容	子どもいっぱい！若者・お年寄りが元気で楽しく過ごせるために、農業から変えていこう！ 〇アスパラガスを全国に広めたい。 〇私たちが好きな野菜、果物を育てたい。 〇牧場を作って、駒ヶ根牛を育て有名にしたい。
担当議員	宮下稔
担当議員より一言	自分たちの大好きな野菜。野菜づくりで地元を元気にしたいという夢。駒ヶ根牛もいいよね。とてもたくましく感じました。人間は「腹いっぱい食べて、ぐっすり眠り、好きなことをやる」これが一番の幸せだ。という説もあります。地元の農地で安心安全な食べ物を作り、市民みんなが幸せになる。若い皆さんのパワーで駒ヶ根の未来を明るくしましょう。

E-1
観光

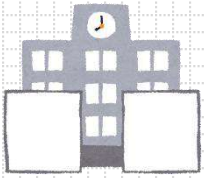


メンバー	**◎大沼優月、原万由香、松﨑平、水村稜希、宮城歩優、山田一翔**
提案内容	たくさんの人に駒ヶ根市の魅力を知っていただき、リピーターやファンを増やしたい！
担当議員	塩澤康一
担当議員より一言	お疲れ様でした。中学生ならではの感覚とアイデアに刺激を受けました。初めはどうなることかと思いましたが（笑）、事前学習を重ねる中でキラリと光るものがありました。最後まで改良し発表に至ったことは本当にすばらしいと思います。観光をテーマに「駒ヶ根の良いところってなんだろう？」と考えることは生活の中で意識のアンテナを立てること。駒ヶ根市の「現状や課題」を知り、「どうなってほしい」のか、「そのためには何が必要か」、「強みは何か」など考えたことは、今後の人生にも必ず生かされます。誇りや自信、ふるさと愛が深まったのでは？私たち一人ひとりが駒ヶ根市を愛することで駒ヶ根市が良くなると信じています。貴重な経験に感謝です！ありがとうございました。

E-2
観光

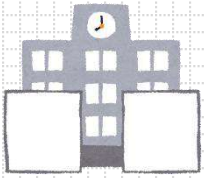


メンバー	◎清水葵漣、安保心結、大島璃愛、酒井優美、堀祥太
提案内容	今よりもっと住みやすく、全国から観光客が来るように！
担当議員	池上善文
担当議員より一言	皆さんに出会ってから３ヶ月余、急成長にびっくりです。 東中生の無限の可能性を信じます。



F-1
教育

メンバー	◎佐藤由紀恵、飯島陽日来、斎藤柑夏、馬場光世、福澤嵐太
提案内容	東中学校のトイレを改装し洋式化を！ 日本一トイレがきれいな駒ヶ根市に！
担当議員	竹村知子
担当議員より一言	クロームブックを使って東中学校トイレの環境をアンケート調査できたことは、すばらしいことです。現状がわかってよかったと思います。 クラウドファンディングなどユニークな発想の提案に感心しました。東中学校のトイレの改修が進むように私も応援していきます。 これからも駒ヶ根市のまちづくりについて一緒に考えていきましょう。



F-2
教育

メンバー	**◎福澤琥生、赤羽小夏、澁谷晃太、堀内太駿**
提案内容	東中学校制服の改善を！ 〇男子はブレザーにしてほしい 〇女子はデザインの変更とリボン又はネクタイを付けてほしい
担当議員	小原茂幸
担当議員より一言	・タブレット端末を活用してのアンケート調査、そのデータに基づいての提案となり、しっかりした内容と発表で、大変良かったと思います。 ・服装は文化であり、身体と心の健康にとって大切なアイテムです。これを機会に、時と場所と場合（TPO）を見据えて、装うことのセンスを磨いていくことも大切にして下さい。 ・市長から、最も実現の可能性がある提案だとの指摘もありました。関係者と話し合いながら、後輩たちのためにも、是非とも実現を目指して努力されることを期待しています。

G-1
文化・スポーツ

メンバー	**◎竹村嘉希、有賀迅、下平拓実、堀内侠真、松﨑孔哉**
提案内容	駒ヶ根をスポーツの盛んなまちに！ ①ホッケーのまち ②eスポーツのまち
担当議員	三原一髙
担当議員より一言	立派な着眼、内容、発表でした。「ホッケーの街こまがね」は現実的な提案で、すごく良かったです。駒ヶ根市は全国スポーツ大会のホッケー会場に名乗りを挙げており、小中高学生を中心にホッケーの普及が進むと良いですね。 eスポーツは若い皆さんらしく最先端の良いところに目を付けましたね。実現のため資金源も提案しており、素晴らしかったと思います。 どれも、実現すると良いですね。実現させましょう!!

G-2
文化・スポーツ

メンバー	**◎久保田紀嘉、赤須由菜、潮田滉知、北原青依、中原大地**
提案内容	夏の風物詩であり郷土愛にもつながる「花火大会や祭りの文化」を大切にする駒ヶ根に！かっぱ祭りのような花火大会の復活を願い、竜東・下平地区を盛り上げ、中学生も楽しめる地域に。
担当議員	松﨑剛也
担当議員より一言	かっぱ祭りのような地域の文化である花火大会の復活や文化・スポーツイベントの情報共有についての提案は、駒ヶ根市の課題をしっかりとらえた提案として素晴らしいものだったと感じます。これからも市民の生活が良くなるために何が必要かを考えて提案行動することが、将来のためにつながるはずです。これからも共に市を良くしていきましょう！

こども未来会議第１号

駒ヶ根市議会こども未来会議（中学生議会）提案書

上記提案書を駒ヶ根市立東中学校２年生を代表し、別紙のとおり提出します。

令和４年３月４日提出

駒ヶ根市長　伊藤祐三　様

提出者　駒ヶ根市議会こども未来会議議員　藤井珠代
同　安保心結
同　小栗唯
同　小高憲弥
同　山田真瑞
同　湯澤翠
同　酒井紋奈
同　木下亮
同　澤崎那悠
同　山田珠璃
同　大沼優月
同　清水葵漣
同　佐藤由紀恵
同　福澤琥生
同　竹村嘉希
同　久保田紀嘉

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	A1　まちづくり・イベント		
メンバー	◎小栗唯、臼井悠夏、小松愛彩美、林洋文	担当議員	中島和彦、加治木今

①駒ヶ根市の現状と課題

観光する場所が少ない、
限られている・・・
お店が少ない・・・
遊ぶところがない・・・
お金がない・・・

→

観光地の魅力の理解が薄い
観光客が少ない（中ア以外）

→

観光地としての取組が弱い。
地元の方々のこだわりがないのでは・・・

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

駒ヶ根市を「地元を思う愛であふれるあっつあつの街」にしたい！

ふたつのアルプスが映えるまち駒ヶ根。素晴らしい山々や自然豊かな田園風景がある里山の魅力が見過ごされており、地元の人たちも魅力の認識不足でもあり、郷土愛をもとっと育んでほしい。
このふるさとの里山を魅力ある観光地として位置づけ、駒ヶ根にしかないありのままの景観、自然、歴史、文化、温泉、食などの融合で癒されるまちとして多くの人に理解し感じていただきたい。

③どうやって…？

まずふるさとを知る機会（景観、自然、歴史、文化、温泉、食など）を作り、駒ヶ根全体が素晴らしいふるさとであることを共有する。
そのために、現在東中で行っているふるさとについて学習したり、ふるさとを愛する心を育む取組み「ふるさとの日」を駒ヶ根市全体に広め行いたい。
ふるさとを思う心を市民全員で共有し、ふるさとの良い所を再発見する。また、その場で地元の特産物やアイデア商品を直売、販売したり、カフェやイベントを行なえば関心も高まり、多くの観光客や地元の人たちとの交流の場にもなる。

④実施できた場合の効果は…？

「ふるさとの日」を駒ヶ根全体で行うことにより、改めてふるさとを知ることができ、今まで気づかなかった所や、駒ヶ根にしかない宝が発見できる。
また、自分たちも良さを実感でき、観光者にも田舎の素晴らしさを伝えられる。そうすれば、駒ヶ根ファンと同時に観光客も増加し、人の交流や地元の名物ソースかつ丼、お土産品購入者等が増えて経済も潤うのではないかと考える。
そして、移住希望地にも繋がり、住みたいまちランキング1位と住みやすさ県内一番を合わせて目指すことができる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	A2　まちづくり・イベント		
メンバー	◎小高憲弥、片桐小春、小出来海、斎藤瞳美、 林優乃、森田日向香	担当議員	加治木今、中島和彦

①駒ヶ根市の現状と課題

イベントが少なくて寂しい。

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

駒ヶ根市をもっと楽しく、明るくするために「かっぱ祭り」を復活させる！
（たくさんの人達がかっぱ祭りの復活を望んでいる。）

③どうやって…？

○寄付を集める・・・・・・・・・・自分たちがお願いをする。人通りの多いところに募金箱を設置する。
○自分たちで屋台を出す・・・ふるさと学習で作成した食べ物などを販売する。
○効果的なPRを行う・・・・・ポスターをもっとたくさんのところに貼る。
○シャトルバスを出す・・・・・バスがあればもっとたくさんの人が集まり、花火も多くの人に見てもらえる。
○マイクロバスを出す・・・・・かっぱ祭りに行きたくてもいけない人（老人）が使うことで花火や屋台が楽しめる。

④実施できた場合の効果は…？

○下平・中沢・東伊那の交流の場となり、駒ヶ根市全体がにぎやかになる。
○観光客の楽しむ場になる。
○地域住民が楽しめる。
○お金が集まる。
○結果として地域活性化になる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	B1　福祉・多様性		
メンバー	◎山田真瑞、春日麻緒、窪田茉秀、 下宮和空、丸山日彩	担当議員	中原茂之、池田幸代

①駒ヶ根市の現状と課題

〇駒ヶ根市の良さが地域内にしか広まっていない。

〇異文化交流の機会がほとんどない。

〇日本で二つしかないJICAが駒ヶ根にあるが広まっていない。

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

JICAとの交流を通して、世界の様々な文化を学ぶと共に駒ヶ根市の魅力を国内外に発信！
世界の文化を学び駒ヶ根市が住みよい地域となるよう考えていきたい。

③どうやって…？

東京オリンピックの「ピクトグラム」のようにお互いに分かりやすい国際交流を行う。

〇JICAとの交流を図り、異文化を学び理解を深める。
〇異文化交流を通じて、今までと違う角度で駒ヶ根市を見る。

④実施できた場合の効果は…？

JICAの方々に駒ヶ根市の良さを伝えて世界に発信できるとともに、交流を通じて多様な世界があることを多くの人に知っていただくことで、住みやすいまちとは何かを考える機会となる。
また、新たな考えや発想が生まれ、より良いまちに発展していく。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	B2　福祉・多様性		
メンバー	◎湯澤翠、有賀羽矢斗、大原絆士朗、小椋なな	担当議員	池田幸代、中原茂之

①駒ヶ根市の現状と課題

新型コロナウイルス感染症の影響により生活に制限がかかり、当たり前のことが当たり前でなくなってきている。仕事を失ったり、営業ができない店がある。また、親の収入が減少した結果、学校に通えないなど、子どもたちの生活にも影響が出ている。

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

お金がなくて困っている人を減らしたい！
全ての子どもたちが自分の希望する進路に進めるようになってほしい！

③どうやって…？

「ふるさとの日」を通じて参加者と交流し、学びながら相談しやすい環境をつくる。

〇ふるさとの日に招待し、豚汁を提供。交流を図る。（招待については自分たちでチラシを作成したり、市報に掲載する。）
〇洋服と温泉無料券をプレゼントする。（洋服は東中で集める。移動には市バスを出す。）

④実施できた場合の効果は…？

交流を通じて人の輪が広がり、孤立せずに誰かに相談ができ元気になる人が増える。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	C1 環境		
メンバー	◎酒井紋奈、久保田優太、小池真叶、 下平遼太郎、中城瀬那	担当議員	氣賀澤葉子、竹村誉

①駒ヶ根市の現状と課題

①ごみが道路や河川に落ちている（天竜川、火山峠、田畑など）。

②土砂災害の対策があまりされていない。森の管理ができていないところがある。

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

①ごみのポイ捨てがなくなってほしい！

②森を適切に管理し、地球温暖化の抑制や土砂災害が少なく安全なまちになってほしい！

③どうやって…？

① ・地域の人が集まってごみ拾いを行う。
・市民に駒ヶ根市のごみの現状を知っていただき、ごみのポイ捨てをしないように、ポスターなどを作成し、市役所の玄関や店舗等に貼って周知する。
・オシャレなデザインのごみ箱を多く設置する。
・ごみ箱の数についてはごみ収集会社の方と話し合って決める。

② ・森林をきれいにすることで、水環境などを改善する。
・ハザードマップを使って、家族や学校で避難経路を頭に入れる話し合いや、実際に歩いてみるなどの対策をとる。
・市として森林整備に取り組む。

④実施できた場合の効果は…？

①道路にごみが無くなり、綺麗になって住みやすくなる。

②森の管理ができると環境がよくなる。

③市民に駒ヶ根市のごみの現状を知っていただくことで、自らが意識し、ごみの減量・分別・再利用を考えるようになる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	C2 環境		
メンバー	◎木下亮、石川寧桜、春日良太、 北村芽珠、藤澤弥月	担当議員	竹村誉、氣賀澤葉子

①駒ヶ根市の現状と課題

私たちが暮らしの中で環境問題を考えたとき、毎日通う通学路や生活道路から見た課題が見えてくる

〇通学路や歩道などの道が暗い
〇道路沿いの雑草が気になる
〇道路や沿線に落ちているゴミが気になる
〇空き地が気になる

②こんな駒ヶ根市にしたい(こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など)

道路沿線の環境美化が保たれ、ゴミが落ちていない駒ヶ根市！

③どうやって…？

〇まちを照らす街灯を景観やエネルギーの無駄遣いに配慮し、必要な場所を特定して設置する。
〇草をできるだけ刈らなくて済むように、毎年季節が来れば綺麗に咲く球根の花を道路沿いに植る。
〇ゴミはゴミ箱に捨てるよう、空き地を活用して、分別や管理に配慮したゴミステーションを設置する。
〇気になっている空き地に、街灯に必要な太陽光発電やゴミステーション、球根の花咲く公園をつくる。

④実施できた場合の効果は…？

街灯でまちが明るくなり、道路沿いの雑草も球根の綺麗な花に置き換わることで綺麗なまちになる。ゴミのポイ捨ては減り、空き地を活用したゴミステーションや街灯の電気を生み出すソーラーエネルギーや球根の花咲く公園が、空き地をなくし活かす対策になる。

４つの課題を関連づけた対策が相乗効果を生み、明るく、綺麗で、空き地が活かされた、自然にも景観にも優しく、暮らしやすく、防犯にも優れたまちになる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	D1　農業		
メンバー	◎澤崎那悠、有賀万琳、北村空音、 竹村基誉成、藤井珠代	担当議員	小原晃一、宮下稔

①駒ヶ根市の現状と課題

○農家収入が少ないことや少子高齢化の影響により、農家の後継者が減少しており、使われていない畑や田んぼが多く見られる。

○県外産や海外産のものを買う人が多いことなどにより、日本全体でみても先進国の中では、食料自給率が37%で非常に低い状態にある。

○市内で生産された農産物や加工品が家やお店で使用されることが少ないと感じる。

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

様々な農業体験を通じて、たくさんの人が農業に興味を持ってもらえれるように！

地元農産物を使った新たな商品開発を！

③どうやって…？

1. 子どもから大人まで誰でも参加できる「農業体験」を行う
   ア. 体験場所として、市内の使われていない畑を借りる。
   イ. 農家の方々に、教わりながら作物を栽培する。
   ウ. 栽培する作物は、「様々なものに加工できるもの」・「初心者でも育てやすいもの」を基準にする。
   「一度に沢山取れる作物」 ＝ ナス・キュウリ・トマト
   「世話なく育つ作物」　　＝ ニラ・三つ葉・シソ
   「何回も収穫できる作物」 ＝ ワケギ・モロヘイヤ　など
2. ウの作物の中から、土地や季節に合わせて選び、栽培する。
3. 豆腐・しょう油・みそ・きな粉・油あげなど様々なものに加工できる大豆を栽培する。
4. 生産した作物を様々な商品や特産物に加工できる施設を造る。

④実施できた場合の効果は…？

○植え付けから収穫まで、農家や市民が協力し合い農業を体験してゆく中で「農業の楽しさ」に気づき、興味を持つ人が増え、後継者が増加し畑の再利用が可能となる。

○市内で生産された農産物が、市内の家やお店に流通して「地産地消」が増え、ゆくゆくは「食料自給率」がアップする。

○「一度にたくさん取れる作物」「世話無く育つ作物」「何回でも収穫できる作物」「様々に加工できる大豆」を栽培することにより、生産力が上がり加工品や特産品の生産・販売につながり、農家の収入が増える。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	D2 農業		
メンバー	◎山田珠璃、小出一歩、中野ことは、 羽柴りえ、森田一士	担当議員	宮下稔、小原晃一

①駒ヶ根市の現状と課題

○少子高齢化・人口減少で、駒ヶ根市に元気がない。
○農家が減少している。高齢者が農業をしている。若い農業者が少ない。
○市内の農家数は1,345戸(約11%) → 自給的農家771戸(6.2%)販売農家574戸(4.6%)
○コメの生産量が一番多く、次に野菜の生産量が多い。
○水がきれい

②こんな駒ヶ根市にしたい(こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など)

子どもいっぱい！若者・お年寄りが元気で楽しく過ごせるために、農業から変えていこう！

○アスパラガスを全国に広めたい。
○私たちが好きな野菜、果物を育てたい。
○牧場を作って、駒ヶ根牛を育て有名にしたい。

③どうやって…？

○道の駅で販売する。道の駅を作って農産物の販売を行い、多くの人に買ってもらう。
○タレント「もう中学生」さんに駒ヶ根の野菜・果物のネタを作ってもらう。
○CMを制作して広くPRし日本一を目指す。
○アスパラガスを生産する。
○市内のアスパラガス生産農家さんに話を聞き、生産者、面積、生産量を増やす。
○農業体験ができるイベントを開催する。
○農地を貸すシステムを広げる。

④実施できた場合の効果は…？

○有名になることで、観光客や移住者、、田舎暮らしをしたいと思う人が増える。
○全国から農業をやりたいと思う若者が集まる。
○農業が盛り上がり、農業をやりたいと思う人が増える。
○農業者が増加し、人口や子どもが増える。
○駒ヶ根市が元気なまちになる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	E1　観光		
メンバー	◎大沼優月、原万由香、松﨑平、水村稜希、 宮城歩優、山田一翔	担当議員	塩澤康一、池上善文

①駒ヶ根市の現状と課題

○人口減少や少子高齢化などによる消費や労働力の減少

○「駒ヶ根と言えば○○!!」というものがない

○地元のものを使った映えるお店がない（生かしきれていない）

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

たくさんの人に駒ヶ根市の魅力を知っていただき、リピーターやファンを増やしたい！

③どうやって…？

○誰もが二度見するようなシンボルを作る。

○空き店舗を探し許可を得て、自分たちで内装やメニューを考える（東伊那の美味しい果物を生かす）。

④実施できた場合の効果は…？

○観光客（リピーターやファン）が増える

○地域の方とのふれあいの場としても活用することで地域が活性化され過疎化が止まる

○市の借金が無くなる

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	E2　観光		
メンバー	◎清水葵漣、安保心結、大島璃愛、 酒井優美、堀祥太	担当議員	池上善文、塩澤康一

①駒ヶ根市の現状と課題

「全国住み良さランキング2021」で駒ヶ根市はなんと12位!
↓
しかし、市民満足度調査では、「市政に市民の声が反映されている」「中心市街地の活性化に向けた取り組みが行われている」という項目で、満足度が低い結果となっている

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

今よりもっと住みやすく、全国から観光客が来るように！

③どうやって…？

〇かっぱ祭りなどのイベント復活（新たなイベント企画）
　→ステージ企画、駒ヶ根産果物などを使った屋台出店、東中で企画する屋台出店など。

〇プールなどの公共施設を復活
　→子供のゲーム依存防止にもつながり、家族や友達で行くという楽しみができる。

④実施できた場合の効果は…？

「かっぱ祭り」の復活により、老若男女全てが集まり、「あと〇日でお祭り！」というように楽しみが増えると同時に、友達や家族と行く楽しみが増え、地域活動に参加しやすくなる。結果的に観光客も増加し地域活性化にもつながる。

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	F1　教育		
メンバー	◎佐藤由紀恵、飯島陽日来、斎藤柑夏、 馬場光世、福澤嵐太	担当議員	竹村知子、小原茂幸

①駒ヶ根市の現状と課題

〇市内の公衆トイレや東中学校のトイレが臭く、汚く、暗く、狭い

〇洋式トイレが少ない

<参考>東中学校トイレに関するアンケート結果より
トイレの環境が良い　33.1%
トイレの環境が良くない　66.9%

②こんな駒ヶ根市にしたい(こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など)

東中学校のトイレを改装し洋式化を！

日本一トイレがきれいな駒ヶ根市に！

③どうやって…？

①先生や生徒を対象としたアンケートを通じて、トイレの状況(匂いの原因など)を調査
↓
②最新の公衆トイレを視察し、改修費用を見積もる
↓
③「臭いトイレは好きか？」をキャッチコピーにクラウドファンディングをしたり、廃品回収などで資金を集め、市長や教育長に要望
↓
④トイレを改装(洋式化し、タイルではない掃除のしやすい床に)する

④実施できた場合の効果は…？

〇東中学校のトイレが「グッドトイレ」に認定され、トイレに対する意識が高まる。
〇生徒も先生も来訪者も幸せで健康になる(「トイレを綺麗にすると良いことが起こる」イエローハット創業者)

【好循環】トイレがきれい→掃除したい→ずっときれい→匂わない→最高！
【悪循環】トイレが汚い→掃除したくない→きれいにならない→臭い→最悪…

駒ヶ根市議会 こども未来会議「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	F2 教育		
メンバー	◎福澤琥生、赤羽小夏、澁谷晃太、堀内太駿	担当議員	小原茂幸、竹村知子

①駒ヶ根市の現状と課題

○制服がダサい、地味

○男子は学ランだから重い

<参考>東中学校制服に関するアンケート結果より
このままが良い　21人
特に思っていることがない　52人
不満がある　88人 → デザインが不満　66人
制服が重い　30人
制服自体不満　21人　（※複数回答）

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

東中学校制服の改善を！

○男子はブレザーにしてほしい
○女子はデザインの変更とリボン又はネクタイを付けてほしい

③どうやって…？

①制服について全校生徒を対象にアンケートを実施する
↓
②周辺の学校の制服を参考にデザインに関わるアンケートを実施する

④実施できた場合の効果は…？

【男子】ボタンの数が減り、軽くなり、着やすく体への負荷が少なくなる
【女子】可愛くなると同時に学校への愛着がわく
↓
東中生徒が学校に愛着を持つと同時に東中を希望する生徒が増える

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	G1　文化・スポーツ		
メンバー	◎竹村嘉希、有賀迅、下平拓実、堀内俠真、松﨑孔哉	担当議員	三原一髙、松﨑剛也

①駒ヶ根市の現状と課題

〇過疎化、少子高齢化、コロナ禍などの影響によりスポーツをしている人が少ない

〇過去に長野県で国体が開催された際、駒ヶ根市はホッケー会場だったこともあり、赤穂中学校などにホッケー部がある

②こんな駒ヶ根市にしたい（こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など）

駒ヶ根をスポーツの盛んなまちに！

①ホッケーのまち
②eスポーツのまち

③どうやって…？

①ホッケーが大好きな人、駒ヶ根でホッケーをやりたいと思っている人を迎え入れる

②eスポーツでまちおこし
・eスポーツ大会の開催
・eスポーツ施設の建設

④実施できた場合の効果は…？

①全国的に有名なまちとなる

②若い世代が集まり、少子高齢化の解消とともに経済面でも潤う

駒ヶ根市議会 こども未来会議 「こんな駒ヶ根市にしたい！」

◎:代表者

グループ	G2　文化・スポーツ		
メンバー	◎久保田紀嘉、赤須由菜、潮田滉知、 北原青依、中原大地	担当議員	松﨑剛也、三原一髙

①駒ヶ根市の現状と課題

○コロナ禍もあり、中学生は行事が少なく寂しいと感じている。
○文化・スポーツなどのイベント情報の共有ができていない。(情報発信が届かない)
○かっぱ祭りがなくなったことで、市で唯一の打ち上げ花火大会が消滅。
○竜東地区で楽しめる祭りがなくなってしまった。
○夏の風物詩であり、郷土愛にもつながる打ち上げ花火や祭りの文化が消えていく。
○東中学校生徒の地域貢献活動(ボランティア)、ステージ発表、楽しみへの参加の場が減少した。

②こんな駒ヶ根市にしたい(こんなことができるといい、こんなふうになってほしい、こんなことをやりたい…など)

夏の風物詩であり郷土愛にもつながる「花火大会や祭りの文化」を大切にする駒ヶ根に！
かっぱ祭りのような花火大会の復活を願い、竜東・下平地区を盛り上げ、中学生も楽しめる地域に。

③どうやって…？

○竜東地区を盛り上げるために、市が花火大会のある「サマーフェスティバル」を開催。
○スプリングフェスティバルのように行政が様々な市民をつなげ、竜東地区でイベントを企画する。
○地域イベントには東中生も様々な学習の発表の場や、地域貢献活動(ボランティア)の場として参加し、学校で作製した特産品などの販売や、ステージ発表、スタッフとして参加する。
○情報発信は有線放送、SNS、HP、小中学校のお便り、ポスターチラシなどにQRコードを掲載し、広くPRする。
○小中学校で大型モニターやタブレットなどで動画配信する機会を増やしPRする。

④実施できた場合の効果は…？

○市民が駒ヶ根市の魅力を再発見する機会となる。
○竜東地区だけでなく駒ヶ根市の地域活性化につながる。
○花火大会や夏祭りを通して日本の文化を好きになり、郷土愛にもつながる。
○SNSや動画配信で駒ヶ根市を知る人が増え、関係人口増加につながる。
○情報が市民に届き、文化・スポーツが盛り上がることで活力に満ちた駒ヶ根市になる。

令和４年

駒ヶ根市議会こども未来会議
（中学生議会）
会議録

駒　ヶ　根　市　議　会

令和４年駒ヶ根市議会こども未来会議（中学生議会）議事日程

令和４年３月４日（金曜日）

午後３時３０分　　開　　会

市議会議長挨拶

こども未来会議（中学生議会）議長選出

市長挨拶

第１　会議録署名議員の指名

第２　駒ヶ根市への提案

代表提案者	提　案　事　項
小　栗　　唯	駒ヶ根市を「地元を思う愛であふれるあっつあつの街」にしたい！
小　高　憲　弥	駒ヶ根市をもっと楽しく、明るくするために「かっぱ祭り」を復活させる！
山　田　真　瑞	JICA との交流を通じて、世界の様々な文化を学ぶと共に駒ヶ根市の魅力を国内外に発信！
湯　澤　　翠	お金がなくて困っている人を減らしたい！
酒　井　紋　奈	①ごみのポイ捨てがなくなってほしい！ ②森を適切に管理し、地球温暖化の抑制や土砂災害が少なく安全なまちになってほしい！
木　下　　亮	道路沿線の環境美化が保たれ、ゴミが落ちていない駒ヶ根市
澤　崎　那　悠	様々な農業体験を通じて、たくさんの人が農業に興味を持ってもらえれるように！地元農産物を使った新たな商品開発を！
山　田　珠　璃	子どもいっぱい！若者・お年寄りが元気で楽しく過ごせるために、農業から変えていこう！
大　沼　優　月	たくさんの人に駒ヶ根市の魅力を知っていただき、リピーターやファンを増やしたい！
清　水　葵　漣	今よりもっと住みやすく、全国から観光客が来るように！
佐　藤　由紀恵	東中学校のトイレを改装し洋式化を！日本一トイレがきれいな駒ヶ根市に！
福　澤　琥　生	東中学校制服の改善を！
竹　村　嘉　希	駒ヶ根市をスポーツの盛んなまちに！
久保田　紀　嘉	夏の風物詩であり郷土愛にもつながる「花火大会や祭りの文化」を大切にする駒ヶ根に！

教育長挨拶

中学生議員代表挨拶

駒ヶ根市立東中学校出席議員（１７名）

議長	藤井珠代	澤崎那悠	担当教諭　中澤博和
議長	安保心結	山田珠璃	
	小栗　唯	大沼優月	
	小高憲弥	清水葵漣	
	山田真瑞	佐藤由紀恵	
	湯澤　翠	福澤琥生	
	酒井紋奈	竹村嘉希	
	木下　亮	久保田紀嘉	

駒ヶ根市議会出席議員（１５名）

中島和彦		中原茂之
竹村知子		塩澤康一
松﨑剛也		小原晃一
加治木　今		池田幸代
池上善文		三原一髙
小原茂幸	市議会副議長	氣賀澤葉子
竹村　誉	市議会議長	小林敏夫
宮下　稔		

市長部局出席者（３名）

市長	伊藤祐三
副市長	小平　操
教育長	本多俊夫

事務局職員出席者

局長	平岩　肇
係長	春日隆志

本 日 の 会 議 に 付 議 し た 事 件

議事日程記載のとおり

午後３時３０分　開会

○局長（平岩　　肇君）　それでは、これより令和４年駒ヶ根市議会こども未来会議（中学生議会）を開会いたします。

長野県新型コロナウイルス感染警戒レベルが本日時点で６ということですので、今回はオンラインによる開催となりますが、よろしくお願いいたします。

初めに市議会議長挨拶。

○市議会議長（小林　敏夫君）　東中学校の皆さん、こんにちは。

延期されていましたこども未来会議が、本日、本番を迎えました。

今年度、新たに駒ヶ根市議会主催のこども議会として、私ども議員もテーマごとの担当者を決めて今まで何度か皆さんと一緒に関わってきました。

本来であれば市役所の議場で思いや御意見を発表していただき、理事者の答弁やコメントを聞くはずとなっていました。大変楽しみにしておりました。コロナ関連で、これ以上先送りすることは日程的に無理ということで、内容は同じですがオンライン会議となってしまいました。今日が皆さんの中学校生活の新たな思い出の１ページになってもらえばと思っております。

こちらでは全議員が議場で応援していますので、皆さんも初めての経験を楽しみながら発表してください。

また、皆さんの目線で駒ヶ根市の様々な取組について発表していただくことに感謝いたします。

そして、今後、議会にも関心を持っていただいて、私ども議員にも気軽に声をかけてもらいたいと思います。

それでは頑張ってください。

○局長（平岩　　肇君）　続きまして、こども未来会議（中学生議会）におけます議長の選出を行います。

議長については、あらかじめ東中学校より選出をいただいておりますので、こちらから指名をさせていただきます。

議長につきましては、藤井珠代議員、安保心結議員のお二人にお願いしたいと思います。

それでは、藤井議員、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井　珠代君）　議長に指名されました藤井珠代です。

オンラインという形になってしまいましたが、スムーズな進行をし、よりよい会議が行えるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

日程に従い会議を進行いたします。

市長挨拶。

伊藤市長、お願いします。

○市長（伊藤　祐三君）　東中学校の皆さん、こんにちは。

駒ヶ根市長の伊藤祐三でございます。本日は、よろしくお願いいたします。

駒ヶ根市議会の皆さんが主催をされ、こども未来会議が開催されることになり、すばらしい取組だと感じております。議員の皆さんや東中学校の皆さんが力を合わせて準備を進め、この日を迎えたことに深く敬意を表します。

コロナ禍のため議場で直接皆さんとお話をすることができないことは残念ですが、地域の様々な課題を考える機会になることと期待をしております。

これまで、東中学校の皆さん、市議会議員の皆さんと一緒に４回の事前学習を通じて議会の仕組みや役割などの学習、ワークショップなどを重ねてきたと伺っております。初めて聞くことや初めて体験することなど、大変なこともあったかと思います。この経験は今後の学校生活や皆さんの将来に必ず役に立つものと思います。

事前学習で学習されたと思いますけれども、市では、まちづくりを推進していく上で様々な事業を行っております。行うためには必ず議会の承認を受けなくてはなりません。事業を行うことによってどんな効果があるのか、どの程度お金がかかるのかといったことを、私、市長と議員の皆さんがこの議場で議論をして決めております。

本日は、皆さんがアイデアを出し検討してきました「こんな駒ヶ根市にしたい」というテーマの下で様々な提案をいただけると伺っております。どんな内容になるのか楽しみにしております。私からそれぞれにつきまして感想をお話しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今回の会議をきっかけに駒ヶ根のことを学んでいただき、そして知っていただき、今まで以上に駒ヶ根を好きになっていただければと思います。魅力あるよりよい駒ヶ根市となるよう一緒に取り組んでいければと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

○議長（藤井　珠代君）　日程第１　会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、山田真瑞議員、木下亮議員、佐藤由紀恵議員を指名いたします。

日程第２　これより会議に移ります。

各グループにおいて議論してきた駒ヶ根市への提案について順次発言を許可します。

発言順位１番　Ａグループ１班　小栗唯議員、提案をお願いします。

○小栗　　唯君　Ａの１グループ１班の小栗唯です。

メンバーは、小松愛彩美、臼井悠夏、林洋文です。

私は、駒ヶ根市を「地元を思う愛であふれるあっつあつの街」にしたいです。

まず、駒ヶ根市の現状としては、観光地のＰＲが足りない、観光者が少ないというところから、観光地としての認識やこだわりがないように見受けられます。

具体的には、まず市民に今あるありのままの自然、歴史、文化、温泉、食べることの融合で癒やされる町ということを多くのことに認識してほしいです。

そのためには、それを認識することができるイベントを行えたらいいのではないかと考えました。そのイベントとして、現在、東中で行っているふるさとの日を提案します。

ふるさとの日とは、ふるさとについて学習する東中生のふるさとを愛する心を育む取組です。これを駒ヶ根全体に広め、行いたいと考えています。

私は、ふるさとの日をまだ知らないふるさと駒ヶ根の新たな一面を知る機会というふうに思っています。以前、子どもの頃から駒ヶ根に住んでいる父にふるさと学習で学んだことを伝えると「知らなかった。」というふうに言っていました。長く地元に住んでいた人でも知らない魅力がまだあるんだなと思いました。

そこで、このイベントは「ふるさとのいいところを再発見する」というテーマで行いたいと思います。実際に行えた場合は、その場で地元の特産品を販売したり、カフェや駒ヶ根に関するクイズも考えています。

ふるさとの日を駒ヶ根全体で行えば、改めてふるさとを知ることができ、今まで気づかなかった駒ヶ根にしかできない宝を発見できると思います。また、自分もよさを実感でき、市外、県外の人にすばらしさを伝えられます。そうすれば、駒ヶ根ファンを増やし、人を呼び込むことができ、移住希望地につながると同時に、住みたい街ランキング１位

と住みやすさ県内一番を併せて目指すことができます。

ふるさとの日が「地元を思う愛であふれるあっつあつの街」にするための駒ヶ根魅力発信の起爆剤になればいいなと思います。

以上が私たちAの１グループの意見となります。御検討ください。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位２番、Ａグループ２班、小高憲弥議員、提案をお願いします。

○小高　憲弥君　Ａグループ２班代表の小高憲弥です。

メンバーは、片桐小春、小出来海、斎藤瞳美、林優乃、森田日向香です。

私たちの班では、まちおこしとイベントを目的として活動しています。

駒ヶ根市をもっと楽しく明るくするために、私たちはかっぱ祭りの復活を考えました。

駒ヶ根市は、イベントが少ない、寂しいなどという意見が上がり、かっぱ祭りを復活させることで下平、中沢、東伊那の交流の場となり、駒ヶ根市全体がにぎやかになる、一つになれると考えました。

それを実現するためにマイクロバスやシャトルバスの送迎、ふるさと学習としての屋台、宣伝、寄附を考えました。マイクロバス、シャトルバスは、かっぱ祭りに行きたくても行けない人などがバスを使うことで花火や屋台を楽しむことができると思います。

僕たちが行っているふるさと学習について知っていますか。Ａグループの１班が説明したとおり、ふるさとを愛する心を育む取組です。

僕たちは、この活動をたくさんの人に知ってもらうために、ふるさと学習で制作した食べ物などを売り、集まったお金で駒ヶ根市全体を盛り上げられるように使いたいと思っています。

宣伝は、かっぱ祭りを以前よりももっとたくさんの人に知ってもらうために、ポスターをもっとたくさんのところに貼ったりします。

寄附は、かっぱ祭りを行う前に私たちがたくさんの家を回り復活させるためのお金を集めたり、人通りの多いところに募金箱を設置したいと思っています。

たくさんの人たちがかっぱ祭りの復活を望んでいます。今復活させないで、いつ復活させるんですか。駒ヶ根を復活させるのは、僕たちがいる今しかありません。かっぱ祭りの復活で駒ヶ根市をもっとよくするために僕たちに力を貸してください。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位３番、Ｂグループ１班、山田真瑞議員、提案をお願いします。

○山田　真瑞君　福祉・多様性グループ、Ｂ１班代表の山田真瑞です。

メンバーは、春日麻緒、窪田茉秀、下宮和空、丸山日彩です。

私たちのグループでは、国際交流の機会を設けてほしいという提案があります。なぜなら、今、駒ヶ根の中学生における現状は異文化交流の機会が少ないと感じます。今後、駒ヶ根や日本の発展に国際交流は必ず必要だと思います。しかし、異文化を学ぶ場所が少なく、時代に遅れているように感じます。

この駒ヶ根市には、お年寄りの方、小さな子ども、体の不自由な方、日本に住む外国の方など、いろんな人がいます。誰もが住みやすい町になるように、多くの人がこのことを理解し考えていく必要があると思います。その中で、一番みんなが注目しない外国との交流、異文化を知る機会が必要なのではないかと思いました。

昨年、日本ではオリンピックが開催されました。日本人は、まだまだ他国の言葉が身近ではありません。

また、私を含め、控えめな面もあるので他国との交流はまだまだ不十分な対応の中、日本人らしいおもてなしをし

ました。それは、言葉ではなく、目で見てすぐに分かるピクトグラムです。直感で感じ分かりやすくした例があります。

駒ヶ根市もピクトグラムの例のようなお互いが分かりやすい国際交流を行うのがよいと思います。

例えば、長野県にあるJICAの訓練所の皆様に御協力を求めることです。私たちの知らない国のことを知り、貧困な国について理解しながら異文化を学ぶことで、今までとは違う角度で駒ヶ根市を見ることができるのではないかと考えました。異文化を考えたことで、何ができるのか、何が必要かを改めて考えることができます。そこから、次には駒ヶ根の魅力を国内外にも発信できるのではないかと思います。そして、駒ヶ根の魅力がもっともっと発展するのではないかと思います。

このように、異文化交流を設けることで新しい考えや発想が生まれ、よりよい町に発展するはずです。それを国内外にも発信できる異文化交流は必要です。なので、異文化交流の機会を設けてください。

以上のことを提案します。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位４番、Ｂグループ２班、湯澤翠議員、提案をお願いします。

○湯澤　　翠君　福祉・多様性グループＢの２班代表の湯澤翠です。

メンバーは、有賀羽矢斗、大原絆士朗、小椋ななです。

コロナウイルスの影響により、私たちの生活も制限を受けたり、やりたいことができなかったり、当たり前のことが当たり前ではなくなりました。

ニュースなどでは、コロナの影響で仕事を失ったり営業ができない店があったり、収入面で困っている人が多いと伝えられています。

親の収入が減った結果、学校に通うことができなくなる人や生活に必要なものが買えないなど、いろいろな面で影響が出ています。

駒ヶ根市でも、コロナに限らず、貧困を感じて困っている方がいるそうです。コロナの終息がいつになるか分からない状況なので、貧困は大きな問題になっていくと思います。

私たち中学生も何年か後には就職したり進学するようになりますが、自分の希望する道に進めるようになってほしいと思います。

そこで、私たち中学生にできることは何か考えました。

まず考えたのは、東中学校で行われているふるさとの日を利用して東中生と参加者が交流し、一緒に解決の方法について学びながら相談しやすい環境をつくるということです。

具体的には、お昼の時間に一緒に豚汁を食べます。例年は東中で作った野菜を使って豚汁を作っていましたが、材料が足りないと思うので、売れなかった野菜や要らなくなった野菜をお願いしてもらい、豚汁に入れたいと思っています。ふるさとの日への招待や野菜のお願いは市報に載せていただきたいです。また、様々な方法で交流を重ねていきたいと思います。

次に、洋服と温泉無料券をプレゼントすることを考えました。洋服は東中学校で集めたいと思っています。温泉無料券は、市や市民の皆さんに御協力いただきたいです。また、温泉に行くための移動のバスを市に出してほしいです。

このような交流を通して人の輪が広がり、孤立せずに誰かに相談ができ、元気になる人が増えると思います。

以上のことを提案します。

○議長（藤井　珠代君）　ここで伊藤市長より講評をいただきます。

伊藤市長、お願いします。

○市長（伊藤　祐三君）　御提案、ありがとうございます。

それぞれ皆しっかりとした論理構成があって関心をいたしました。

まず最初のＡのグループの皆さん、まちづくりとイベントについて御提案をいただきました。

Ａ１の皆さんは、ふるさとの日を駒ヶ根市挙げて行ってはどうかという御提案だったと思います。

地域について学び考えるという体験を行うということは、これからのイベントを進めていくための重要なポイントだと思っております。学ぶ、考えるということは、イベントの規模、費用、あるいは有名な人を呼んでくる、そうしたものと全く関係なくイベントの中身を深めることができるからです。大がかりな施設を造ることも必要ありませんし、アイデアと熱意さえあればどこでもできるということであります。駒ヶ根市のよさを発信するということにとって、とてもふさわしいことだと思います。そうした点に目を向けていただいたことが、まずすばらしい着眼点だと思っております。

こうした愛着があれば、Ａ１の皆さんが指摘された観光地としてのこだわり、こうしたものにつながっていくと思います。この愛着を原動力にして、自分たちのふるさとをどう伝えれば駒ヶ根以外の人たちに分かってもらえるんだろうかという工夫を是非一緒に考えていければと思います。

Ａ２の皆さんが提案されたかっぱ祭りの復活も、そうした地元への愛着が強いということだからこそだと思っております。屋台を出し、寄附や宣伝を自らやりたいという意欲も本当にすばらしいと思います。

多くの皆さんとどんなお祭りができるのか、今後も引き続き考えていきたいと思っております。

それから、Ｂのグループの皆さんがテーマとされた福祉、多様性、これは本当に難しいテーマであります。自分と違う暮らしを行っていたり価値観を持っていたりする人たちに思いをはせて、どんなことをしたらふさわしいのかということを考える必要があるからです。その人その人の想像力が試されることになるんだろうと思います。

Ｂ１の皆さんが提案された外国との交流の機会を設けてほしいという提案、これはとても大事なことだと思います。

駒ヶ根市には、全国で２か所しかないJICAの訓練所が半世紀近く前から置かれております。発展途上国で活躍する青年海外協力隊の皆さんを駒ヶ根市が育てて送り出しているということになります。

隊員の中には、訓練をされた駒ヶ根市を第二のふるさとと感じて移住していただいて、様々な活躍をされている方も多いのが現状です。

市民の皆さんの中にも、有志で団体をつくって、自分たちで国際交流を進められている方もいます。こうした草の根の国際交流が根づいている地方の町というのは、本当に珍しいケースだと思っています。

ここ２年、コロナウイルスのために中止となっていますが、中学生の皆さんをネパールに派遣するという事業も続いております。毎年、秋にはみなこいフェスティバルというものもありますし、先月は外務省と駒ヶ根市が共同で草の根の国際交流をテーマにしたシンポジウムも始めました。様々な機会をつくってきたと考えております。

皆さんが参加されるような機会をさらに増やしていくよう努力したいと思います。

Ｂ２の皆さんが提案された、ふるさとの日を利用して困っている方を招こうというアイデア、これもすばらしいことだと思います。困っている方、いろんな方へ思いをはせるということがしっかりとできるのだなあということは非常に関心をいたしました。

もし東中学校で行う場合には、市としてもどんな支援ができるのか一緒に考えたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○議長（藤井　珠代君）　会議を続行いたします。

発言順位５番、Ｃグループ１班、酒井紋奈議員、提案をお願いします。

○酒井　紋奈君　Ｃグループ１班、代表者の酒井紋奈です。

メンバーは、中城瀬那、小池真叶、下平遼太郎、久保田優太です。

私たちのグループでは、ごみについて話し合いました。

さらに、ごみの意見だけでなく、土砂災害の対策があまりされていないという課題も見つかりました。森林の管理ができていないという点も土砂災害の対策が不完全である原因の１つだと思います。

駒ヶ根市のごみの現状と課題は、ごみが天竜川、東伊那の火山峠、田んぼに多くあるということです。このようなごみのポイ捨てが多く見られるため、地域の人で集まりごみ拾いをしたり、まずごみが落ちているという現状を知ってもらうためにポスターを作成し、スーパーや市役所の玄関に貼ってもらったりするという工夫をすることで改善されるのではないかという意見も出ましたが、ごみをしっかり捨ててくれる人が増えるというメリットだけでなく、回収の手間がかかり、分別が大変になり、逆にごみがたまってしまうというデメリットもあるということが挙げられています。これらのことは全てごみのポイ捨てから起こることだと私たちは考えました。

まずは、ごみ箱の設置について話します。

皆さんはディズニーリゾートにごみ箱が多いのを御存じですか。ディズニーのごみ箱は様々な工夫がされています。設置数が多く、ゲスト全員がごみをちゃんと捨てているのが分かるし、ごみ箱のデザインがおしゃれなことにより、ゲストに捨てようという意識が生まれ、ポイ捨てが少ないです。

また、ディズニーでは、キャストさんがごみ拾いをしています。それにより、さらに捨てられているごみが少なくなっています。

なので、駒ヶ根市でもごみ箱のデザインを工夫したり、市民でごみ拾いを行ったりすることができると思います。

ごみ箱の設置数については、ごみ収集会社の方と話合い、回収できる範囲での設置をしたらいいと思っています。

自然災害は起きてしまうものなので、起きてしまった後の対策として、ハザードマップを使って家族や学校での避難経路を頭に入れて話し合い、実際に歩いてみるなどの対策ができると思います。

そして、少し森林について話します。

森林が水源となっているため、森が汚いと水も汚くなってしまいます。なので、森林をきれいにすることで水や環境がきれいになると思います。

市長さんには森林整備に取り組んでいただきたいです。

自分たちがこれからできることもあると思うので、身近なところからやっていきたいと思います。

以上です。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位６番、Ｃグループ２班、木下亮議員、提案をお願いします。

○木下　　亮君　Ｃグループ２班代表の木下亮です。

メンバーは、春日良太、北村芽珠、石川寧桜、藤澤弥月です。

私たちのグループでは、毎日通う通学路や生活道路から見た環境についての課題を考えてみました。通学路や歩道などの道が暗いこと、道路沿いに生えている草が気になること、道を通る際に落ちているごみが気になること、道を通っているときに空き地が気になること、これらが私たちの目から見た駒ヶ根市の現状と課題です。

私たちのテーマは、道が明るく、草の手入れが行き届いていて、空き地が活用されていて、ごみも落ちていない、そんな町。

どうやって実現させるのかというと、自然エネルギーを利用して省エネで景観にいい街灯を必要なところに設置する、ごみ問題は、ごみ箱をたくさん置くと管理も分別も大変なので、気になっていた空き地を活用してごみステーションをみんなが利用しやすい適当な場所へ考え設置する、道路沿いの草がちゃんと手入れされているように毎年時期が来ればきれいに咲く球根の花を道路沿いにみんなの力で植える、気になっていた空き地にはソーラーパネル、ごみステーション、公園などを設置し活用する。

実施できた場合の効果では、街灯では町が明るくなり、道路沿いの雑草も球根のきれいな花に置き換わることできれいな町になる、ごみのポイ捨ては減り、空き地を活用したごみステーションや街灯の電気を生み出すソーラーエネルギーや球根の花咲く公園が空き地をなくし、生かす対策になる。

これらの４つの課題を関連づけた対策が相乗効果を生み、明るくきれいで、空き地が活用され、自然にも景観にも優しく、暮らしやすく防犯にも優れた町になります。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位７番、Ｄグループ１班、澤崎那悠議員、提案をお願いします。

○澤崎　那悠君　Ｄグループ１班の代表者の澤崎那悠です。

メンバーは、有賀万琳、北村空音、竹村基誉成、藤井珠代さんと私です。

Ｄグループ１班は農業がテーマです。

私たちが考える駒ヶ根市の農業の現状と課題は３つあります。

１つ目は、農家の後継者が少ないということです。これが原因で使われていない畑や田んぼも多く見られます。

２つ目は、食料自給率が低いということです。日本全体で見ても先進国の中では非常に低い３７％で、これからの課題になっています。

３つ目は、市内で作られた農産物や加工品が家やお店で食べられていないことです。

これらの原因をインターネットで調べてみたところ、後継者が少ないということには農家の収入が少ない、少子高齢化が進んでいることなどが関係していました。また、食料自給率が低いことについては県外や海外のものを買う人が多いことなどが影響していることが分かりました。

そこで考えたのが、いろいろな作物を作る体験をすれば、若い人も農業に興味を持ち、農家が増えるということです。

そのために農業体験というものを考えました。

体験場所として市内の使われていない畑を貸してもらい、農家の方々に教わりながら作物を栽培します。できた作物は、市内のお店と協力して調理したり、商品化してスーパーや直売所などで販売できたらいいなと考えています。もちろん、この体験には子どもから大人まで誰でも参加できます。

栽培する作物は、様々なものに加工できる、初心者でも育てやすいなどを基準に調べたところ、一度にたくさん取れる作物がナス、キュウリ、トマト、世話なく育つ作物がニラ、ミツバ、シソ、何回も収穫できる作物にワケギ、モロヘイヤなどがありました。

また、大豆は、豆腐、しょうゆ、みそ、きな粉、油揚げなど、様々なものに加工することができます。

このような作物の中から土地や季節に合わせて選び、栽培します。このように植付けから収穫まで農家と市民が協力し合いながら農業を体験していく中で農業の楽しさに気づき、興味を持つ人が増えるような活動になればうれしい

です。

畑仕事なんて面倒くさいと思っている人もいるかもしれません。ですが、市民一人一人が駒ヶ根市の農業の課題と向き合い、協力していくことも大事だと思います。

まずは簡単に作れる作物から始めて、どんどん幅を広げていくのもいいと思います。

農業体験というきっかけから一人でも多くの人が農業に興味を持ってもらえるような活動にしたいです。

最後に市長さんへお願いです。地元で作った農産物を商品や特産品に加工できる場所をつくってほしいです。よろしくお願いします。

以上でDの１班の提案を終わります。

○議長（藤井　珠代君）　発言順位８番、Ｄグループ２班、山田珠璃議員、提案をお願いします。

○山田　珠璃君　Ｄグループ２班代表の山田珠璃です。

メンバーは、羽柴りえ、中野ことは、森田一士、小出一歩です。

私たちＤ２班は、駒ヶ根市を元気にするために農業のことについて話し合いました。

子どもいっぱい、若者、お年寄りが元気で楽しく過ごせるために、まずは農業から変えていきたいと考えました。そのために、アスパラガスを駒ヶ根から県へ、県から全国へ広めていきたいです。レンコン、ナス、キュウリ、梨、ブドウ、これらは私たちが大好きなもの、こういう好きな野菜や果物もたくさん育てていければいいと思っています。

でも、どうやってこういうものを広めればいいか、私たちが考えた広め方は、１　道の駅を造り農産物を売って人を集めて、特産品を買ってもらって、おいしさを知ってもらう、２　長野県出身で今大ブレーク中の芸人、もう中学生さんに作っている野菜や果物などでネタを作ってもらったりしてＰＲしてもらう、３　ほかにもＣＭで作っている野菜などを紹介するなど、たくさんの人に知ってもらえるように工夫をします。

でも、まずは広めるよりも作らなければいけません。

アスパラガスでは、駒ヶ根でアスパラガスを作っている農家さんに育て方などを聞いたり、実際に作ってみたりします。アスパラガス農家さんを増やし、面積、出荷量も増やしていきたいと思います。

そのほかにも、農業を体験できるイベントなどを開くことによって、より多くの人に駒ヶ根や市内のおいしい農産物を知ってもらえます。

実施できた場合、駒ヶ根の野菜が有名になる、観光客プラス移住者が増え、田舎暮らしをしたい人が増える効果があると思います。

今、若者じゃなく、お年寄りが農業をやっているところを多く見かけますが、全国から来て農業をやる若者が増えると考えます。農業者が増え、人口や子どもも増える、駒ヶ根が元気に、そして農業が盛り上がり、農家をやりたいと思ってくれる人もたくさん出てくると思います。

土地などは、市が農地を貸すシステムをもっとやってほしいです。そうなることで農業をやれるところが広くなると思います。

そして、私たちは頭の片隅に入れていた夢があります。それは牧場をつくりたいと思っています。牧場をつくり、駒ヶ根牛をつくりたいです。そして、牧場で体験やイベントなどを開いて多くの人に触れ合ってもらいたい、駒ヶ根牛を全国に知ってもらいたいです。たくさん食べてもらったり、来て触れ合ってもらうことで駒ヶ根のことをより知ってもらうことができます。

市長さん、私たちの夢、かなえてください。

そして、農業のことについても考えてみてくださったらうれしいです。

以上のことを提案します。

○議長（藤井　珠代君）　ここで伊藤市長より講評いただきます。

伊藤市長、お願いします。

○市長（伊藤　祐三君）　ありがとうございます。

まず、Ｃのグループの皆さんからは環境について御提案をいただきました。

２つのグループともごみのポイ捨ての問題を指摘されておられました。

こんなにすばらしい自然景観のある町で道端にペットボトルが転がっているということであれば、来た人は本当にがっかりしてしまうと思います。

皆さんのような問題意識を持っていれば、そうした悲しいことはそもそも起こらないんですが、皆さんのように考えていないからこそ、こうしたいろんな取組が必要になってくるんだろうと思います。

これは、実は世界中の人が同じようなことを考えて、どうしたらいいかと悩んでいる問題の１つでもあります。

シンガポールでは、ごみを捨てた人に厳しい罰則や高い罰金をかけることで取り締まって、きれいな町を保とうとしています。

しかし、こうしたことを日本でやろうとすれば、なかなか多くの人の賛成は得られないんだろうなあと思います。

捨てた人を厳しく罰するんではなくて、ゲーム理論、あるいは行動学といったものを使って、ごみを拾ったりきちんと捨てた人が得をするというような仕組みを考えるという対応もあるんだろうと思います。

ごみ箱をきれいなデザインにするとか、空き地に利用しやすいごみステーションを置くといったアイデアもいただきました。きれいな環境をどうやったら保っていけるのか、これからも皆さんと一緒に工夫をしていきたいと思います。大事なことは解決策を考え続けることだと思っております。

それから、Ｄのグループの皆さんからは農業について御提案をいただきました。

農業は、暮らしを支える本当に重要な産業である、なくてはならないもののはずなんですが、皆さんが指摘されるように、何も作られない農地が増え、次をやりたいという人が少なくなってしまっています。

何でこんなことになったのかというと、皆さんも御指摘されたように、農業があまり儲からない仕事になってしまったからだと思います。大きな原因の１つは、国際競争によって、広い土地で大きな機械を使って大量の作物を作って、安い値段の外国産の農作物が入ってくるようになったことでありましょう。売れない商品を作っても生活はできないということで国内の農家の皆さんが減ってしまったんだと考えております。

そこで、どうしたら国内の、駒ヶ根の農業を元気にできるかということで皆さんが考えていただいたわけです。つまり、値段では勝てなくても別の強みがあったらいいじゃないかという着眼点だと思います。そこを一生懸命考えてくれたことは、本当にすばらしいことだと思います。

Ｄ１の皆さんは、食べるだけではなくて、作る体験をしたら作物への愛着が生まれて売れるんじゃないかというふうに考えていただきました。

さらに、作物を加工して販路を広げるという御提案もいただきました。

農業の楽しさを知ってもらう、つまり、それは農業の新しい価値を生み出そうという戦略で、とてもいいアイデアだと思います。

駒ヶ根市内にも駒ヶ根高原やかっぱ直売所のように農家の皆さんが直接自分たちの作物を販売している場もありま

す。

それから、現在、竜東地区の入り口にあります新宮川岸という地区に新しい農業拠点を造ろうと、今、計画を進めております。ここでは農産品の加工品なども作る予定であります。ここを新たな拠点にしたいと思っております。

それから、Ｄ２の皆さんが御提案いただいた新しいいろんな少量多品種の作物作り、これも国内農業が生き残っていくための１つの鍵です。

私の知っている京都の山奥で農家をやっている方がいますが、この方は、それほど広くない耕地の中でたくさんの作物を月ごとに作って、それを通信販売しています。これによって１人で1,000万円以上の売上げを毎年稼いでいる、そういうやり方もあります。ですから、こうした少量多品種というのも１つのやり方だと思います。

アスパラガスのことも挙げていただきました。実は、私の友人が今年から駒ヶ根市でアスパラガスの栽培を始めます。皆さんが関心を寄せていると聞いたら非常に喜ぶと思います。

それから、駒ヶ根牛も大変魅力的であります。

今も駒ヶ根市内で肉牛を育てておられる方はいるんです。ただ、なかなか規模が大きくないのでブランド牛というほどにはなっておりません。

いろんなやり方の可能性はあると私は思っております。是非皆さんの中から私も農業をやりたいという方が増えていただければありがたいなと思っております。その場合は市が全力を挙げて支援をいたしますので、是非よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○議長（藤井　珠代君）　ここで暫時休憩といたします。再開は午後４時２５分といたします。

一旦ビデオを停止し、ミュートにしてください。

休憩。

午後４時１５分　休憩

午後４時２５分　再開

○議長（藤井　珠代君）　再開いたします。

休憩前に引き続き会議を続行いたします。

ここで議長を交代します。

○議長（安保　心結君）　議長を交代しました。

安保心結です。会議をスムーズに行えるよう努めていきますので、よろしくお願いします。

会議を続行いたします。

順次発言を許可します。

発言順位９番、Ｅグループ１班、大沼優月議員、提案をお願いします。

○大沼　優月君　Ｅグループ１班の大沼優月です。

メンバーは、松崎平、山田一翔、水村稜希、宮城歩優、原万由香です。

僕たちは駒ヶ根の観光をテーマに考えてきました。

そこで、私たちは駒ヶ根市の現状について考えました。

駒ヶ根市のホームページにもあるように、人口減少や少子高齢化などによる消費や労働力の減少など、駒ヶ根といったら○○といったものがないという意見が上がりました。

そこで、私たちは、駒ヶ根市に観光に来ていただき、駒ヶ根の良さ、魅力を知ってもらい、リピーターやファンを増やしたいと考えました。

そんな駒ヶ根市にするためにグループで話し合いました。誰もが二度見するようなシンボルをつくる、今空いているお店を使って写真映えするようなお店をつくるという意見が出てきました。

そこで、駒ヶ根の武器である竜東地区の果物などの特産品を使ったお店をつくりたいという意見が上がりました。竜東地区の果物はすごくおいしいので、全国の人にも知ってもらいたいです。

果物だけではなく、駒ヶ根ならではのお店をつくることで、例えば駒ヶ根の特産品のソースかつ丼とゴマを組み合わせたアレンジレシピを作ることで全国から観光客を集めることができるのではないかと考えました。お店の内装は大人っぽいモダンな雰囲気と子どもっぽい優しい雰囲気を組み合わせたりし、メニューなども私たち中学生で考えていくことができたら駒ヶ根の活動に貢献することができると思います。

このような活動を通して駒ヶ根市の良いところや魅力を知ってもらい、リピートしてもらえるような市になってほしいです。

地域の方などにも利用していただき、地域の方との触れ合いの場としても活用していただけるような場所にしていきたいです。

駒ヶ根の課題もこれを通していい方向に向かっていけるといいと思いました。なので、僕たちはこれを提案します。

○議長（安保　心結君）　発言順位１０番、Ｅグループ２班、清水葵漣議員、提案をお願いします。

○清水　葵漣君　Ｅグループ２班代表の清水葵漣です。

メンバーは、安保心結、大島璃愛、酒井優美、堀祥太です。

私たちのグループでは観光をテーマに話合いをしてきました。

その話合いで出た駒ヶ根市の現状と課題についてまずお話します。

駒ヶ根市は、全国の住みよさランキング 2021 で何と１２位、しかも県内トップなんです。すごいですよね。

しかし、市民の皆さんの満足度調査を見てみたところ、「市政に市民の声が反映されている」「中心市街地の活性化に向けた取組が行われている」という項目の満足度が低いということ分かりました。

私たちの班では中心市街地の活性化に向けた取組に着目して考えました。

初めは、ドン・キホーテやイオンなどのお店を増やす、ＣＭなどでもっと宣伝する、ほったらかしになっている山などを手入れし屋外アスレチックや大きい公園などを造り、もっと住みやすく、他県からも観光客が来るようにしたいという意見が出ました。

ですが、話合いを深めていくと、かっぱ祭りなどのイベントの復活、プールなどの公共施設の復活をさせて、今ある施設や歴史を大事にしながら、もっと住みやすく、他県からも観光客が来るようにしたらという意見が出ました。

かっぱ祭りは、前までの出し物プラス駒ヶ根産の果物や野菜などを使った屋台などを出したり、学生が総合的な学習の一環で屋台を出したり、何かを発表するといいと思いました。

プールは、友達と外で遊べるので子どものゲーム依存防止にもなるし、長期休暇のときの楽しみも増えると思うのでいいと思います。

実施できた場合の効果は、かっぱ祭りでは、老若男女、全ての人が集まるようになるので活気のある市になると思います。そして、あと何日でお祭りというような楽しみが増えることにより、その日まで頑張ろうというようにモチベーションを上げたり、何かを前よりも精いっぱいやれるようになったりするのではないかと考えました。地域での

交流も増えるので、活動に参加しやすくなるだろうと考えました。

プールの復活では、友達とさらに仲よくなったり外で遊ぶ機会が増えたりするのではないかと思います。

以上です。

○議長（安保　心結君）　発言順位１１番、Ｆグループ１班、佐藤由紀恵議員、提案をお願いします。

○佐藤由紀恵君　教育グループＦ１班、代表者、佐藤由紀恵です。

メンバーは、飯島陽日来、斎藤柑夏、馬場光世、福澤嵐太です。

私たちが思う駒ヶ根市の現状と課題はトイレの環境についてです。

そこで、私たちの班では Chromebook を使って全校に東中のトイレについてのアンケートを取りました。その結果、トイレの環境が「よい」と答えた人は全校の 33.1%で、環境が「よくない」と答えた人は 66.9%でした。「よくない」と答えた人の具体的な意見は、臭いがする、汚れている、洋式が少ないなどの意見が出ました。改善として、工事、換気、掃除などの意見も出ました。

改善点として出た工事では、工事するためには多くのお金が必要となります。そこで、私たちは廃品回収をして資金を集めたり、クラウドファンディングで資金を集めるなどの方法を考えてみました。

トイレを改善することについては、洋式を増やして、タイルではない掃除のしやすい床にすることがよいと思います。

市長、教育長に要望します。

トイレは、個人や社会にとっても健康ということではすごく重要な場所です。トイレが汚かったり臭いがしたりすると衛生的にもよくないと思います。自分たちや社会にとっても健康を守るためにも、トイレはきれいにしたほうがいいと私たちは考えました。

トイレをきれいにできた場合の効果は、好循環としては、トイレがきれい、掃除したいと思える、トイレがずっときれいな状態になる、臭いがしなくなる、最高のトイレになる。一方、悪循環としては、トイレが汚い、掃除する気が起こらない、ずっと汚いまま、臭いがしてしまう、最悪なトイレになる。なので、工事が実施できたら生徒や先生方、来校者の方々も気分よく使用できるトイレになると思います。

さらに、トイレがきれいであることで東中への入学を希望してくれる人も増えると思います。

ＪＲ駒ヶ根駅のトイレがグッドトイレに認定されているので、東中のトイレもグッドトイレに認定されたらいいなと思っています。東中がグッドトイレに認定されれば、駒ヶ根の人に広まってトイレに対する意識が高まると思います。そして日本一トイレがきれいな駒ヶ根市になればいいと思います。

なので、まずクラウドファンディングから始めたいと思っています。それには改修費用の見積りが必要になりますので、是非御検討をお願いします。

以上提案いたしますので、よろしくお願いします。

○議長（安保　心結君）　発言順位１２番、Ｆグループ２班、福澤琥生議員、提案をお願いします。

○福澤　琥生君　教育グループ２班代表、福澤琥生です。

メンバーは、赤羽小夏、澁谷晃太、堀内太駿です。

私たちは東中学校の制服について提案します。

まず、東中学校の生徒が学校の制服についてどう思っているのかChromebook でアンケートを行いました。その結果、161 人の回答のうち「このままがいい」と回答した人は２１人、「特に思っていることがない」と回答した人は５２人、

そして「不満がある」と回答した人は半数以上の８８人となりました。そして、「不満がある」と回答した人のうち、複数回答で「デザインを不満に思っている」と回答した人は６６人、「制服が重い」と回答した人は３０人、その他、制服自体に不満を持っている人は２１人という結果になりました。

この結果から、私たちのグループでは、男子は赤穂中学校のようなブレザーの追加、女子はデザインの変更、リボンまたはネクタイの追加を提案します。

そのために、近隣の学校の制服のデザインを参考にしながら、全校生徒だけではなく、先生、保護者にも変更するかどうかについてアンケートを行い、生徒以外の人の意見も取り入れ実施していけばいいと思います。

中には古きよき伝統を残していくべきだと考え、何もかも新しくすればいいとは思わない方もいるかもしれません。あるいは、男子、女子、どちらでも着られるユニバーサルデザインの提案があるかもしれません。

ですが、もしこの案が実施できた場合、男子の制服が軽くなり、着やすくなり、体への負荷が少なくなり、健康のことを考えても学校生活への支障が減ると思います。女子は、かわいくなると思うと学校へ行くのも前向きになり、気持ちも明るく楽しい気持ちになります。そして東中学校の生徒がこの学校に愛着がわくようになるのではないかと思います。東中を希望する生徒も増えるのではないでしょうか。

今の制服に対して不満に思っている人がたくさんいる以上、時代や環境の変化に合わせて変えていくことも必要なことだと思います。是非検討をお願いします。

○議長（安保　心結君）　発言順位１３番、Ｇグループ１班、竹村嘉希議員、提案をお願いします。

○竹村　嘉希君　スポーツ班１班代表の竹村嘉希です。

メンバーは、有賀迅、堀内俠真、松﨑孔哉、下平拓実です。

Ｇ１グループの中での課題としては、スポーツをしている人が少ない、過疎化、少子高齢化、コロナ禍の影響が原因だと考えました。

そこで、僕たちは過疎化、少子高齢化の２つに着目し考えました。その２つを主に考えた結果、ｅスポーツの町、ホッケーの町の２つの案が出ました。

そのためには、まず過疎化問題を解決するためにホッケーに力を入れればいいと考えました。なぜなら、ホッケーは駒ヶ根で有名だったという過去があり、昔、駒ヶ根で国体が開かれていました。なので、ホッケーで駒ヶ根を再び有名にし、コロナ禍、オミクロン株が完全に終わったら、ホッケーの大好きな人やここでホッケーをやりたいと思っている人たちを迎え入れるようにすればいいと考えました。

そこで、社会体育でホッケーチームをつくり、ホッケーで駒ヶ根市を盛り上げてくれればいいと思います。もし仮にこれが成功したら、全国的、または県内で有名な市となると予想します。そのために、駒ヶ根市がより有名になると考えました。

今の駒ヶ根市は少子高齢化が進行しており、経済的にも大きな負担がのしかかっているように思います。そこで、ｅスポーツでまちおこしをすることを提案します。

ｅスポーツとは、ビデオゲームを使った対戦型スポーツ競技で、競技人口は360万人います。

ｅスポーツでまちおこしをすることによって若い世代の人たちが来て、ｅスポーツの大会やｅスポーツの展示館のようなものを造れば経済的にも潤い、少子高齢化が解消されるのではないかと思います。

元手となる資金はクラウドファンディングで集めることで、市としてマイナスになることはないと思います。

私たちのグループからの提案は以上です。

御検討お願いします。

○議長（安保　心結君）　発言順位１４番、Ｇグループ２班、久保田紀嘉議員、提案をお願いします。

○久保田紀嘉君　文化・スポーツ２班代表の久保田紀嘉です。

メンバーは、赤須由菜、潮田滉知、北原青依、中原大地です。

私たちが考える駒ヶ根市の現状と課題は２つあります。１つ目は、コロナ禍ということもありイベントや祭りが減ってしまって、中学生は寂しいと感じていることです。２つ目は、様々なイベントの情報が届いてこないため、どんなイベントがあるのかよく分からないということです。

私たちは、竜東地区で行けるお祭りがかっぱ祭りしかなかったため、寂しいと感じています。そして、駒ヶ根市唯一の打ち上げ花火大会もなくなってしまい、がっかりしています。今まで当たり前に行われ、当たり前に行っていたお祭りがいざなくなると、どれだけ楽しみにしていたか、どれだけつまらない夏になってしまうのかが分かりました。そこで、かっぱ祭り、またはそれらに代わるお祭りを復活させたい、またかっぱ祭りのような花火が見たいと強く思いました。

かっぱ祭りは一日楽しめるお祭りでした。出店が立ち並び、友達と何を買おうか、何を食べようか話しているのも楽しみの１つです。また、東中学校の生徒の一部はボランティアで参加していたので、地域貢献を学ぶいい機会でした。ステージでの演芸もあり、これに参加した人もたくさんいます。夜は花火があり、スターマインや二尺玉は迫力があり、駒ヶ根市を代表するお祭りでした。中学生にとって夏の思い出となるお祭りでもありました。

私たちは、かっぱ祭りのような花火大会の復活を願い、また各地区で行われる文化やスポーツのイベント情報を共有できる、地域、竜東・下平地区を盛り上げ、中学生も楽しめる地域にしたいと思っています。

かっぱ祭りのような花火大会を復活させるにはどうしたらよいか、また情報共有の仕方を提案します。

小規模でも花火は絶対見たい。

細々したお祭りやイベントを一つにまとめ、それぞれの主催者が協力する。

春に市が行う予定だったスプリングフェスティバルのように、夏に花火つきのサマーフェスティバルを新たにつくる。

支える輪を広げ、市内全体、中学生から大人まで、みんなでつくる祭り。そこには、もちろん中学生も協力する。

情報発信は、有線、ＳＮＳ、ホームページ、ＱＲコードつきの小中学校のお便り、学校でも動画配信、ＱＲコードを活用したポスター、チラシなどで広い世代、多くの人々にＰＲする。

どうでしょうか。

竜東地区振興のために市が中心となってかっぱ祭りのような花火大会を復活させてもらえないでしょうか。

もし実施できたら、市外の人も来てくれるので駒ヶ根市の良さを知ってもらうチャンスです。

市内の人にも駒ヶ根市の魅力を再発見してもらい、竜東地区だけでなく、駒ヶ根市の地域活性化にもつながります。

情報誌を置いたりＰＲ動画を流したり、アフターコロナにつながる活気ある姿です。

お祭りに来てくれた人が知り合いに言ったりＳＮＳで発信したりしていけば、数年後には何倍もの人が駒ヶ根市を知り、新しいかっぱ祭りを見に来てくれるのではないでしょうか。

私たちの提案は以上です。

○議長（安保　心結君）　ここで伊藤市長より講評いただきます。

伊藤市長、お願いします。

○市長（伊藤　祐三君）　ありがとうございました。

まず、Ｅグループの皆さんからは観光について御提案をいただきました。

観光は駒ヶ根市にとって大事な産業であります。

ただ、駒ヶ根市全体で見ると、働いている人の数や売上高などの規模で比べますと、製造業が圧倒的に大きいんですね。地域経済にとっては製造業のほうが存在感は大きいということになります。

しかし、観光は、こうした製造業とは違う役割があります。駒ヶ根市を多くの人に知ってもらう機会を提供できるという役割です。

中央アルプス、駒ヶ岳ロープウェイを中心に、コロナ前には駒ヶ根市に年間100万人を超える人が訪れていました。こうした観光客の皆さんに駒ヶ根のすばらしい景観、この土地の味を楽しんでもらって、市民の皆さんとも交流をする、そして、こうした積み重ねをすることで駒ヶ根市のよさが伝わっていく、こうした仕事は、まさに観光以外になかなかできない仕事なんですね。その産業を持っている駒ヶ根市というのは本当にすばらしい宝を持っていると思っております。人口３万人、決して多くありませんけれども、こうした観光があることでほかの町にはない価値を高めていると思います。

皆さんの提案も、こうした観光の力を感じているからこそ様々なアイデアを出していただいたんだと思っております。

Ｅ１グループの皆さんが竜東地区のおいしい果物を生かそうという提案、まさに地元にある宝物を大事にしようという発想であります。

Ｅ２の皆さんは、最初、ドン・キホーテとか大きなお店を誘致したらどうだというふうに考えたんですが、話を進めるうちにかっぱ祭りのような地域のイベント、宝を大事にしたほうがいいというふうに変わっていったと紹介していただきました。

地域にある宝物を大事にしよう、こういう発想こそが地域戦略を考える正しい、すばらしいプロセスだと思います。ミニ東京をつくっても、結局、東京には勝てないんですから。

駒ヶ根市にはすばらしい宝物があります。様々な活用方法を是非これからも皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

それから、次にＦのグループの皆さんは教育でありました。

１つ意外だったことは、教育の問題が学習内容とか勉強の話ではなくてトイレや制服という環境の問題だったということであります。生徒の皆さんにとっては、やはり日々の学校での生活そのものが教育問題ということなんだろうなあというふうに感じました。

それから、データを取るためにアンケートを２つのグループともやっておられましたけれども、どちらもChromebookを使って行っておられました。ＧＩＧＡスクールが実践されているというふうに感じて、うれしく思いました。

Ｆ１の皆さんが提案したトイレの改善は、暮らしの環境を整える意味で本当に大事なことだと思います。そのための資金をクラウドファンディングで集めようというアイデアもいいアイデアだと思います。

ただ、次のハードルは多くの皆さんが東中のトイレ改修のためにお金を出したいと思っていただけるかどうか、ここのステップが乗り越えられるかどうかというところが次の課題になります。

駒ヶ根市は、今年度、中央アルプスにある檜尾小屋の増改築の資金を集めるために初めてクラウドファンディングをやってみました。

実は多くの自治体がこうしたことを既に行っているんです。また企業も、あるいは民間の団体も行っておりまして、毎日たくさんのクラウドファンディングがサイトには並んでいます。こうした中で檜尾小屋のためのお金を出してもいいと思ってもらえるためにはどうしたらいいかということで、どんなページ構成にするか、どんな内容にするか、キャッチコピーはどうするか、私も一緒に考えて原稿を書きました。登山者向けの雑誌にも広告を出してみました。こうしたことをやった結果、目標の300万円を超えて1,000万円前後の寄附に届くことができました。

こうした知恵を、是非東中のトイレ改修に向けて絞っていただければなあと思います。

Ｆ２のグループの制服の提案であります。

これは、実は皆さんが自分の手でできるんじゃないかなあと思います。学校の中でこんな制服にしたいという提案を皆さん御自身が提案すれば、きっと話が広がっていくんではないかなあと思います。是非チャレンジをしてみてください。

それから、最後のＧグループの皆さんは文化・スポーツということでありました。

Ｇ1の皆さんが提案されたホッケー、これは大賛成です。

私が中学生のときに国体に備えて赤穂中学校にホッケー部ができました。何人かの同級生が参加して、グラウンドでスティックを使って練習をしていたことを覚えております。

今も長野県内でホッケーが行われているのは、ほぼ駒ヶ根市だけです。

次に長野県で行われる国民スポーツ大会では、飯島町とともにホッケー会場の誘致を駒ヶ根市は表明しております。現在ある馬住の野球場をホッケー場に改装して試合会場にしたいと考えております。

ただ、問題は駒ヶ根に選手がいるかどうかということです。駒ヶ根に選手がいなければ会場を貸すだけということになってしまいます。

ウィンブルドン現象という言葉があります。テニスのウィンブルドン選手権、これは世界一の大会ですけれども、実はイギリス出身の選手はほとんど活躍していない、場所を貸すだけだということで、ウィンブルドン現象という言い方がいっとき金融界、経済界等で言われたことがありますが、そういうことになってはもったいないと思っております。

ホッケー協会の皆さんには、大会までまだ時間はありますので、選手を育てていただくようお願いをしております。既に幼稚園や小学校などで出前教室をしたりして、クラブチームの結成なども計画しております。今から始めれば必ず長野県代表になれます。是非皆さんの中からもホッケーに挑戦をしていただければと思います。

それから、Ｇ２の皆さんのかっぱ祭り、ほかの皆さんからも声が上がっておりました。地域での存在感が大きかったということを改めて感じました。皆さんが楽しみにされていたということがよく分かりました。

これまでかっぱ祭りを運営してこられた地域の関係者の皆さんの努力には本当に感謝を申し上げます。

ただ、なかなか財政が厳しい中で、市が主催するということは難しいというのも、これもまた現実であります。

情報発信に力を入れて多くの人を集めたいという提案もございました。

イベントを行うに当たって動員数というのは非常に大切なことですので、どれぐらい集まるかという計算はしていかなくちゃいけないと思いますが、情報発信、それから運営にかかる費用をどうやって集めていくのか、これからも皆さんと一緒に工夫ができればと思います。是非、これからもいろんなアイデアをいただければと思います。

本日はありがとうございました。

非常にいろんな分野から御提案をいただきまして、刺激的な時間でありました。

今後も駒ヶ根市に引き続いて関心を寄せていただいて、是非、こちらにもまた提案、御意見をいただければと思います。

本日はありがとうございました。

○議長（安保　心結君）　以上で全ての提案が終わりました。

本日提案した提案書は、後日、駒ヶ根市議会小林議長より伊藤市長へ提出していただきます。

教育長挨拶。

本多教育長、お願いします。

○教育長（本多　俊夫君）　３学期末の大変多用な中にもかかわらず、またコロナ禍にもかかわらず中学生議会に参加していただき、本当にありがとうございました。

今回の１４の提案は、ふるさとを見詰め直す活動を中心とした東中学校の総合学習の経験による中学生的実体感の結晶であると思います。これが市、行政、議会に一灯をともすカンフル剤となると思います。

驚きを幾つか述べます。

同じ提案でも目線が違うとこうも違うものかと、中学生の発想の柔らかさ、目のつけどころの新鮮さに脱帽いたします。

２つ目、身近な事情の中にある、なぜ、どうしてっていうことにこだわり、ごみ問題等、生活に密着した問題を中学生なりの解決方法で求めていることに驚きました。

３つ目、駒ヶ根市が求めているごちゃまぜの発想、それとの関わりで、例えば異文化交流ではピクトグラムを使ってというような発想、こういう発想を無限に持っているんだなあという驚き。

４つ目、自分たちの学校で行っているふるさとの日を市全体に広げようという前向きの提案、広がり等々、驚かされることがたくさんございました。

皆さんは確実に内から育っているなあ、すばらしいなあという感想であります。

提案が全て受け入れられるとは限りませんが、今後これらの提案を硬い頭の大人がどう受け止めるかが試されております。

是非、提案だけでなく、これからもふるさと駒ヶ根のために共に皆さんも考え続けてほしいですし、大好きな駒ヶ根になるために、中学生にできることは実行し続けてほしいと思います。

藤井さん、安保さんの２人の議長さん、また生徒の皆さん、本当にお疲れさまでした。

ありがとうございました。

○議長（安保　心結君）　中学生議員代表挨拶。

藤井珠代議員、お願いします。

○藤井　珠代君　私は、今回のこども未来会議を通して駒ヶ根市の課題やよいところについて改めて向き合うことができたと思います。

１４年間この駒ヶ根市で暮らしてきたけれど、まだまだ知らないことや課題がたくさんあることに気づくことができたし、グループごとに話合いを進める中でどうすればよりよい駒ヶ根市になるのかと様々な視点から考え合うことができました。これは東中学校でふるさと学習を行ってきたことや私たちに寄り添って考えてくださった議員さんのおかげだと思います。

議会というものがどういうものなのか身近に感じることができました。これはほかの地区では行っていないことだ

と聞き、よい経験になりました。ありがとうございました。

今回は新型コロナウイルス感染予防のために議場での会議はかなわず、とても残念でしたが、無事にこども未来会議を行うことができてとてもうれしかったです。

私たちも、ただ提案して終わるのではなく、自分たちにできることから行動していきたいと思います。

このたびは東中学校２年生にこのような機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。

○議長（安保　心結君）　以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これにて令和４年こども未来会議（中学生議会）を閉会いたします。

お疲れさまでした。

○市議会副議長（氣賀澤　葉子君）　東中学校の生徒さん、そして先生方、さらに関係していただいた皆様、こども未来会議（中学生議会）がこのように開催されましたこと本当に感謝申し上げます。

提案内容はもちろんですが発表の態度もとても落ち着いていて自然な感じで素晴らしいものでした。11 月 12 日から始まった事前学習会では２年生全員の皆さんとも進めていくことができました。本当にありがとうございました。

本日はオンラインの開催となりましたけれども、この時期ではこれはこれで良かったなと改めて思っています。

校長先生はじめ担当してくださった先生方にも本当にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

新年度になりましたら是非中学生の皆さん全員で駒ヶ根市議会へ遊びに来てください。議場でお待ちしています。

本日は本当にありがとうございました

○局長（平岩　肇君）　ありがとうございました。

以上ですべて終了となります。それでは適宜退室をお願いします。

午後５時００分　散会

令和４年３月１６日

こども未来会議議長　藤井　珠代

こども未来会議議長　安保　心結

会議録署名議員　山田　真瑞

会議録署名議員　木下　亮

会議録署名議員　佐藤　由紀恵